◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

◇　　近畿ゆめ通信　第２５５号　　◇

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

◇◆----------

本メールマガジンは、近畿地方整備局管内の市町村長様をはじめ、
日頃から当局にご指導等をいただいております団体、個人の方々に
送信させていただいております。
皆様からのご意見ご感想をお待ちしています。

mailto:　otayori@kkr.mlit.go.jp

----------◇◆

２０１５年　５月２５日

目　次

１．「道路のストック効果」
近畿地方整備局　道路部長　伊勢田 敏

２．「神戸港の機能強化について」
近畿地方整備局　港湾空港部長　稲田 雅裕

３．「魅せる現場　in　近畿技術」
近畿地方整備局　近畿技術事務所長　宮武 一郎

４．最近の動き
【１】「推進工法発祥の地記念碑除幕式」が執り行われました
近畿地方整備局　建政部　都市調整官　圓谷 秀夫

【２】建設業ＢＣＰ策定の推進
近畿地方整備局 企画部　防災課長　竜門 俊次

５．おたよりコーナー
『ちょっとご近所ご案内』　－生国魂神社－
高野 浩二

６．事務局から

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇
１．「道路のストック効果」
◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

近畿地方整備局　道路部長の伊勢田敏です。

道路整備の経済波及効果は、フロー効果とストック効果の２つがあります。フロー効果は、建設で投資されるお金が経済循環を呼び、生産や所得が増加する効果です。一方、ストック効果は、道路の開通後に生まれる効果で、人やモノの新たな流れが生まれ、民間投資の誘発や観光客の増加、人口や雇用などを増加させ、永続的に経済を成長させる効果です。これまで、短期的なフロー効果（景気浮揚）ばかりが強調されてきましたが、道路整備の本来的な役割であるストック効果をもっと積極的にＰＲしなければなりません。さっそく、近畿におけるストック効果の具体的な事例をご紹介します。

平成２６年７月に舞鶴若狭自動車道は全線が開通しました。開通で福井県内への観光客数が急増し、平成２６年度の入り込み客数は初めて１１００万人を突破しました。また京都縦貫自動車道は、昭和６３年以降、段階的に開通し、その間に舞鶴港の取扱貨物量は５５７万トン（昭和６３年）から１１０８万トン（平成２５年）と２倍に増加しました。いよいよ今年７月に全線が開通します。舞鶴若狭自動車道と一体となって琵琶湖周辺の周回ルートが形成されるので、さらに新たな観光や投資が産まれることを期待しています。

また、全線開通して５年が経過した第二京阪道路は、沿線で企業立地が相次ぎ、八幡市の製品出荷額が１２５億円増加、法人税収が２億円増加しました。また、枚方市では製品出荷額が１６６８億円増加、法人税収が１５億円増加しました。今後も沿線の工業・物流施設、商業施設などの立地が期待されます。

このように、道路ストックは、経済成長や地方創生に大きく貢献しています。これらストック効果を広くご理解頂くため、近畿地方整備局道路部ホームページ http://www.kkr.mlit.go.jp/road/stock/index.html　に効果の具体事例を掲載し、道の駅や市役所ロビーなどでパネルを展示してＰＲしています。一度ご覧頂き、広報についてご協力頂ければ幸いです。

また、近畿ではこの経済効果を呼ぶ開通が、今年から来年にかけて目白押しです。開通時期を明示した詳しい地図は、http://www.kkr.mlit.go.jp/road/kaitsuyotei.pdf　　でご覧頂けます。印刷配布も可能です。こちらも是非ご活用下さい。

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇
２.「神戸港の機能強化について」
◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

近畿地方整備局　港湾空港部長の稲田雅裕です。

去る５月１６日（土）、安倍総理大臣に神戸港六甲アイランドコンテナターミナルをご視察頂きました。同ターミナルでは、船舶大型化に対応するための水深１６ｍへの増深及び耐震対策工事を当局で実施中です。総理には、日本郵船の９千個積大型コンテナ船（欧州航路）の荷役風景をご覧頂きながら、阪神大震災から復興した神戸港が貿易を支えていること、地震に強い港湾インフラの重要性やアベノミクスを牽引する国際コンテナ戦略港湾政策の進捗状況等をご理解頂きました。

２０年前の阪神大震災では、当時１８６バースあった公共岸壁、15km の防波堤という神戸港のストックのほぼ全てが被災し使えなくなりました。近畿地整の前身、運輸省第三港湾建設局では約１４０名からなる「震災復興建設部」を直ちに発足させ、発災後２年間で神戸港の全ての港湾施設の完全復旧をやり遂げました。被災後、背後の製造業が失われ、韓国等に貨物が流出した結果、神戸港のコンテナ貨物は半減してしまいましたが、その後の集貨・創貨策が奏功していることなどから、現在は往時の９割まで回復し、順調に港勢を伸ばしている状況です。

来年度の拡大パナマ運河の供用などの動きを見据え、コンテナ船の大型化は急速に進行しています。かつては想像さえ出来なかった２万個積の超大型コンテナ船が多数発注され、日本の今治造船でも建造が始められています。各船社はチーム（アライアンス）を組み、新しく建造した最大級のコンテナ船を欧州とアジアを結ぶ欧州航路に投入します。それまで欧州航路に投入されていた大型コンテナ船は押し出されて、北米とアジアを結ぶ北米航路に移されます。北米航路に投入されていたコンテナ船はアジア域内航路に移されます。このような押し出し効果（カスケード現象）によって、各方面の航路に投入されるコンテナ船が全体的に大型化していくことになります。

我が国に外航コンテナ船が入港する港湾は６０港以上ありますが、あらゆる港湾の水深を深くすることは財政的にできませんので、超大型コンテナ船が投入される欧州航路や北米航路を持つ選ばれし港湾に集中して大水深コンテナターミナルを整備しています。東の京浜港、西の阪神港がその対象です。

今後とも貿易立国・日本を支えていくためには、貿易の最前線にあるコンテナターミナルのハードは大水深かつ大規模で強靭でなければなりません。さらに、その運営は効率的かつ高いサービスが提供されなければなりません。加えて、背後荷主からのアクセスも良好でなければなりません。そのようなターミナルの整備・運営が、阪神港で行われています。

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

３.「魅せる現場　in　近畿技術」

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

近畿地方整備局　近畿技術事務所長の宮武一郎です。

本年　４月１日に近畿技術事務所に着任致しました。よろしくお願い致します。

近畿地方整備局では、一般の方を対象に普段立ち入りを制限している工事現場等の見学を実施しています。「魅せる！現場」といいます。

近畿技術事務所には、「安全・安心を支える土木技術を観て、触れて、体験できる！」現場があります。交通バリアフリー比較体験コース、土木構造物検査技術研修施設、土質試験・コンクリート試験室・アスファルト試験室、災害対策用機械があり、これらの見学や体験ができます。今回は、交通バリアフリー比較体験コースと土木構造物検査技術研修施設を紹介致します。

交通バリアフリー比較体験コースは、実際に障害者の立場になって通行等が不便となっている施設を体験し、バリアフリー化への理解と関心を高めていくことを目的とした施設です。コースには、車道とのすりつけ段差の異なる横断歩道、車止め等により狭くなった歩道、傾斜の異なるスロープ、ステップ数の異なるバスの乗降口、整備状況の異なる視覚障害者誘導用ブロック等を設けており、車椅子体験や白杖（はくじょう）体験（アイマスクをし、目の不自由な人が持つ白い杖をもって歩く体験）によりバリアフリー化へ理解をより深めることができます。

土木構造物検査技術研修施設は、土木構造物の設計技術や施工に関わる品質管理・検査技術について、次世代を担う技術者に継承することを目的とした施設です。施設には、実際の損傷事例を再現した橋梁や変状・欠陥を再現したコンクリート構造物の実物大模型、排水性舗装については良好な事例と不具合な事例の他、劣化した構造物の実態を体感できるように実際の現場から撤去した構造物などを展示しています。

両施設とも本年度既に 50 名を超える方に研修でご利用頂いていますが、今後も一般の方も含めて幅広くご利用頂ければと思います。ご利用に当たりましては、近畿技術事務所までお問い合わせ等頂きますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先：
近畿技術事務所　総務課
〒573-0166　　大阪府枚方市山田池北町 11-1
TEL：072－856－1941（代表）、FAX：072－868－5604

魅せる現場：http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/genbakengaku/index.html

交通バリアフリー比較体験コース：
http://www.kkr.mlit.go.jp/kingi/event/index.html
土木構造物検査技術研修施設：http://www.kkr.mlit.go.jp/kingi/about/04.html

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇
４．最近の動き
◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

【１】「推進工法発祥の地記念碑除幕式」が執り行われました

近畿地方整備局　建政部　都市調整官　圓谷秀夫

去る５月１５日、尼崎市昭和町１丁目付近の国道２号線南側舗道上において、推進工法発祥の地を記念した碑の除幕式がありました。公益社団法人日本推進技術協会が主催し、尼崎市の稲村市長、国土交通省水管理・国土保全局の塩路下水道部長、近畿地方整備局建政部の植田部長や平城兵庫国道事務所長が参列し、盛大にテープカットが行われました。

管路の工事は大きく分けて二つあり、地面を掘削して管を敷設した後に埋戻す開削工法と、地表を掘削することなく地中を掘削貫通する非開削工法に分けられます。推進工法は、管路の施工起点と終点にそれぞれ発進立坑と到達立坑を設置し、発進立坑の後部の壁を反力受けとしたジャッキの推力により管を土中に押込む工法で、非開削工法の一つです。

さて、当地において最初に施工された推進工事は、昭和２３年５月、当時の国鉄東海道線尼崎駅と尼崎港専を結ぶ尼崎臨海線を地下横断する工事で、ガス管を入れるさや管としてφ６００㎜で延長約6mの鋳鉄管を３日間かけて推進したそうです。

推進工法の技術はその後様々な技術開発を経て、下水道事業の進展に寄与したのみならず、下水道以外の多様なライフラインの用途にも採用されています。今後も、国内だけでなく海外のインフラ整備への貢献が期待されています。

お近くに来られた際は、是非、祈念碑を探し当て、当時の工事の様子をご覧ください。

【２】建設業ＢＣＰ策定の推進

近畿地方整備局 企画部防災課長　竜門俊次

日本の国土において、地震災害、風水害は付き物です。大規模自然災害が発生した状況下、組織は自らの被害を軽減し早期に通常の状態に復帰させるということは言うまでもありません。とりわけ、多くの国民が使用する社会基盤が被災した場合、二次災害防止や早期復旧・復興のためには建設会社自らの被害軽減が必要ですし、活動には早めの通常復帰が鍵となります。このため、建設会社と行政機関が連携しながら災害対応力強化を図る取

組が、建設業ＢＣＰです。

ＢＣＰとは、「事業継続計画」：Business Continuity Plan のことで、企業が災害や事故で被害を受けても、取引先等の利害関係者から、重要業務が中断しないこと、中断してもできるだけ短い期間で再開するために、平時から追求しておく計画を言います。建設業ＢＣＰ策定の取組みを推進するために、各会社で行っている取組みを近畿地方整備局において認定する制度があります。

認定を受けた建設会社は、災害時の事業継続力を備えている会社として信頼性や社会的評価の一層の向上につながるものと考えており、「もしもの時に」その成果が発揮されることを期待するものです。また、総合評価落札方式の入札時のインセンティブとして、ポイント加点の対象にもなっています。

近畿地方整備局では、取組の推進を期待し、平成２４年６月２７日制度発足以来、同年７月に第１回受付を開始（認定工種：一般土木、維持修繕、港湾土木、港湾等しゅんせつ）し、現在５４８社が認定されています。激甚化している大規模自然災害や近い時期に間違いなく発生する南海トラフ巨大地震への事前の備えが必要ですが、 認定数は近畿地方整備局有資格社数と比較すると１割程度になったのが現状です。

建設業ＢＣＰの新規及び更新の受付を、平成２７年５月１８日（月）～７月１７日（金）の間、全工種について開始しております。更新受付については平成２５年１０月１日認定分が対象となり、更新手続きをお忘れなく。

以下は、時間がある時にお読みください。

【受付内容】

〇認定期間：平成２７年１０月１日より２年間

〇審査要領の確認項目

Ａ．重要業務の選定と目標時間の把握

Ｂ．目標時間の把握

Ｃ．災害時の対応体制

Ｄ．対応拠点の確保

Ｅ．情報発信・情報共有

Ｆ．人員と資機材の調達

Ｇ．訓練と改善の実施

詳細及び資料のダウンロードは、近畿地方整備局ホームページをご覧ください。

http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/kensetubcp/120712top.htm

◇◆◇

５.おたよりコーナー

◇◆◇

『ちょっとご近所ご案内』―生国魂神社―

高野 浩二

谷町９丁目交差点の西南３００ｍ、上町台地西縁の台地 にこの神社は鎮座します。谷町筋の方からこの神社の鳥居に向かいますと、神社のすぐ前の道が、歴史の散歩道、になっています。この道を北にとると、ほぼ、八軒家の船着き場に至りますから、昔の熊野道、との想定でしょうか・・。

社殿によれば、神倭伊波礼毘古命（かむやまといわれひこのみこと）（のちの神武天皇）ご東征のとき、上町台地北端の地、難波之碕に、大八洲（おおやしま）の神霊であり、国土の守護神でもある、生島大神、足島大神をお祀りされたのを創始と伝えます。

この頃、西の大阪湾と東の河内湖の間に確固とした陸地は上町台地だけでした。河内湖には、北から淀川が、南から大和川が流れ込み、運び込む土砂と海潮のはたらきで、上町台地の周辺に島が出来、陸化が進んでゆきました。海洋民族とは云え、陸上生物である人びとにとって、それは如何にも力強いことだったでしょう。この祭祀はさらに白鳳、奈良、平安の時代へと伝えられ、国家祭祀八十島祭として斎行されました。

当初は上町台地の北端近くに祀られたのですが、大坂城築城に当たり、現在の鎮座地に遷されたと伝えられています。

のち、大物主大神を 相殿神として祀り、その御神徳は、万物創造・生成発展・五穀豊穣・家内安全・縁むすび・社運隆昌と、根本的な人の幸せ全般に亘っています。もとより延喜式の名神大社に列し、この地域最古の神社でございます。

本殿の建築は特殊な様式で、本殿・弊殿の屋根が一つの流造り、しかも千鳥破風、すがり唐破風、千鳥破風を重ねた、生国魂造、と呼ばれ、豪壮な桃山文化の遺構を伝えたものとされているのだそうです。

社前に額ずき、国の平穏と人々の幸せを祈り、広い境内を巡拝して回ります。境内社も多く、皇大神宮、住吉神社、天満宮をはじめ、勝運方除の神様・城方向八幡宮、金物カマドの神様・鞴神社、土木建築の神様・家造祖神社、芸能上達の神様・浄瑠璃神社、女性守護の神様・鴫野神社、源九郎稲荷神社、稲荷神社、生玉公園にある漁業の神様・精鎮社、が鎮座します。

また、上方落語の米澤彦八の碑をはじめ、浄瑠璃、八雲琴、西鶴の記念碑や像、さらに、いくつかの句碑も建てられ、近世・近代の大阪文化を集め、表現しています。

天王寺七坂の一つ、生玉真言坂に繋がる朱塗りに北門に立つと、左手一帯は、街中には珍しい大樹林・生玉の杜。目の前の参道Ｔ字路の角には、この神社内の道案内の標識が建てられていて、この神社の広さを誇ると同時に、なんとなく、参詣者の微笑みを誘うのも

楽しい雰囲気と云えそうです。

《参照写真》http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/maga/yume/pdf/92.pdf

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

６．事務局から

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

日頃は「近畿ゆめ通信」をご愛読いただき感謝申し上げます。

今回、事務局でピックアップした政策情報は下記の項目です。ご参考にして頂ければ幸いです。

（１）建設業の役割や、魅力を紹介する映像「建設現場へＧＯ！」を国土交通省のホームページ等で公開　５月１日

http://www.mlit.go.jp/report/press/totikensangyo14_hh_000503.html

（２）公共工事等における新技術活用システム（NETIS）における平成２７年度推奨技術等の選定結果について　～他機関との新技術情報共有～　５月１日

http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08_hh_000301.html

（３）近畿地方整備局が取り組んでいる主な事業の進捗状況について　５月１５日

http://server-jp.imrworldwide.com/cgi-bin/b?cg=0&ci=mlitkkr&tu=http://www.kkr.mlit.go.jp/scripts/kisha-upload/index.pl?action=pdf%26no=15957

（４）平成２７年度予算を踏まえた道路事業の見通しについて　５月１５日

http://server-jp.imrworldwide.com/cgi-bin/b?cg=0&ci=mlitkkr&tu=http://www.kkr.mlit.go.jp/scripts/kisha-upload/index.pl?action=pdf%26no=15958

（５）公共工事の入札契約方式の適用に関するガイドラインについて.

http://www.mlit.go.jp/tec/nyuusatsukeiyakugaido.html

事務局では、読者の皆様から頂いたご意見、ご感想を参考に、より親しみのある「近畿ゆめ通信」づくりを目指しています。

皆さま方から頂いたご意見、ご感想を広く他の読者の方々に紹介するとともに更なる内容の向上を図るため、おたよりコーナーを設けております。

ご意見ご感想を本コーナーに掲載ご希望の方は「掲載希望」と明示し、所属・氏名を記入のうえメールまたはＦＡＸでお寄せ下さい。

なお、所属・氏名を掲載致しますことをご了承下さい。

【メール】　mailto:otayori@kkr.mlit.go.jp

【ＦＡＸ】　０６－６９４２－７４６３

近畿ゆめ通信をメールにて送信させていただいていますが、人事異動等で送信先に変更がございましたら事務局までご連絡ください。

◇◆----------

次号発行は、６月１０日の予定です

「近畿ゆめ通信」を掲載したホームページは、下記の URL です。

http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/maga/yume/yume.html

----------◇◆

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

◇◆　　＜発行＞　　◇◆

◇◆　　近畿ゆめ通信　事務局　　◇◆

◇◆　　電話　０６－６９４２－１１４１　　◇◆

◇◆　　内線２１１７　沢田 道彦　　◇◆

◇◆　　ＦＡＸ　０６－６９４２－７４６３　　◇◆

◇◆　　mailto: otayori@kkr.mlit.go.jp　　◇◆

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆